



▲来場者に「ふくしまの米」をプレゼント



▲福島県産品のブースは大好評!



▲華麗なダンスを披露するフラガールたち

特集Ⅱ

フラガールとともに!!
第7回北見ハーフマラソン大会での
新米「ふくしまの米」をPR

10月11日(日)に北海道北見市にある香りやんせ公園で開催された「第7回北見ハーフマラソン大会」で、JA全農福島は「ふくしまの米」の新米PRと福島県産品の販売会を行いました。当県からは、「ふくしま農業PRサポーター」であるスパリゾートハワイアンズのフラガール3名が応援に駆け付け、会場に花を添えました。開会式の後は、本場のフラダンスショーで観客を魅了し、ハーフマラソンのスタート地点では満面の笑みでの見送りで、ランナーの士気を高めていました。

その後、来場者に先着で300名様に福島県産コシヒカリ500gのプレゼントを

実施。フラガールたちの前には長蛇の列ができ、お米をもらいながら握手を求めるところも多くおり大盛況となりました。福島県産品のブースでは、新米の会津産コシヒカリ5kgやナシ(新高)、ジャンボどら焼きを販売しました。フラガールたちによるナシの試食会では、「みずみずしくて、おいしい」「すぐくじゅーしー!」などと、うれしい声が上がリ、買い求めるお客様で賑わいました。また、ジャンボどら焼きもあまり見かけない大きさが受け、すぐに完売してしまいました。

北海道といえば、広大な土地を持つ農産物の宝庫というイメージですが、福島県からはイチゴ、桃、リンゴ、ブドウ、そしてお米など様々な農産物が販売されています。今後もJA全農福島は、このような活動を通して、どんどん福島県産農産物を北海道にPRしてまいります。

特集Ⅰ

「安全」で「おいしい」を福島から全国へ
「ふくしま米」懇談会開催



▲「ふくしま米」懇談会の様子



▲あいさつをする大橋信夫会長



▲猪股孝二県本部長を座長として県産米への意見を交換しました。

10月2日(金)、東京都の東京ステーションホテルで「ふくしま米」求評懇談会を開催しました。JA全農福島とふくしま米需要拡大推進協議会の共催で、全国の米卸24社から26名と、産地側からJAグループの代表と福島県職員合わせて27名、合計で53名が出席して行われました。

懇談会では、産地代表のJA福島五連大橋信夫会長、米卸代表として榎むらせの村瀬慶太郎社長が挨拶した後、全国の米穀情勢と県産米の生育状況についての報告を行いました。また、産地の取組として、「JA全農福島の27年産米販売計画・販売対策」、「県の農産物PR対策」を紹介しました。

県産米に対しての意見交換では、北海道や沖縄県での県産米の販売拡大のための取組が紹介されたほか、県産米の品質の良さ、中・西日本を中心として依然として風評被害が根強いこと、全量全袋検査の来年度以降の継続要望、「天のつぶ」の品質均一化などの意見が出されました。今後は懇談会でのご意見を生産や販売に活かしていけるよう事業をすすめていく予定です。